

幸田一族の墓域

昭和47年3月9日 八潮市指定記念物（史跡）

●八潮市中央3丁目19番地2（妙光寺）

妙光寺には、八條領中馬場村を治めた幸田氏の墓地がある。幸田一族は、150石の旗本で、寛永4年（1627）から慶応4年（1868）まで中馬場の領主であった。幸田家が妙光寺を葬地としたのは、宝暦8年（1758）頃で幸田親盈以降とされている。

幸田親盈（1691～1758）は、江戸中期の算学者で、数学の関流中根元圭らに師事し、天文や暦などを研究し、『白山暦解義』6巻（年不詳）、『八線表解義術意』1巻（享保17年刊）などを著し、算学に多大な業績を残した。また、親盈の弟子の中には、今井兼庭、千葉歳胤らの有名な算学者がいた。親盈の子親平は、算学者・歌学者として知られ江戸幕府の勘定奉行を務めた。

現在では11基の墓標が祀

られており、中央には丸彫り型（釈迦如来座像）の供養塔が置かれている。この供養塔は親盈以前の人物を追善するために建てられたもので、妙光寺の記録によれば、慶長17年（1612）より明治元年（1868）までの256年間に34名が追埋葬されている。昭和51年（1976）の墓地整理の際、墓域からは近世の陶器片や古銭などが出土しており、埋葬に伴う副葬品であると考えられる。



◎公開の有無：常時公開

◎その他の文化財：福德3年日正筆私年号曼荼羅（非公開）

◎交通案内

- ・八潮駅北口からバス（柳之宮または伊草団地経由草加駅東口行）「上馬場」下車徒歩1分
- ・八潮市コミュニティバス西ルート（文化スポーツセンター～保健センター経由）「中央三丁目」下車徒歩1分



本図は電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成したものです。